

新著聞集

新著聞集

智篇第十五

途と仰し難と救い藁と拔て急と辨す

句と賡時と祝す

春日望の鹿の解とみる

若人との討の方便

龜と活と一は

盗賊の別と

巧智一言親族の難とす



牛乳を煮てほく

巢や蛇とふせく

感随和尚悪人の終と化す

詠歌をやりく

巧智争と解く

官家獄中の死と紀明す

兄弟山と巧言の解とまぐ

念仏傳の謀老父と教化す

釣とほて咽ふ入

穂とほて咽ふ入

胡椒とほてほす

碁石とほ入

尾羽の真市餅の食傷と療す

金と印と難と救ひ藁と抜て急と辨す

氏府大火の時餘烟すべし江城内とていひし
しに余の女中達とてはしひしりべきやと
あつたりしより松平伊豆のちどの奥よりあへ
きぬいそとつづてあてられとるべしと
きぬと教られしに一人もあつたらずして
迹出急難とてはしききぬとて大樹公の
治めり候ありし時醫師を治灸点と奉られ
しに藁とをりしるも免角ゆつりしるバ

伊豆のまどの津おと立込の夢せうく切
破く抜出しくまきまうれあうとらん
句と賁時と祝す

一條摂政兼良公十二歳より清ん胎し
虚空に何もあまに怪しきとあて

猿のやうなえはきせり

やうしうは頼て縁の方より走り出せり

え胎ハおれ母のやうじき

と附きせしぬとらんけいふの清ん胎のやう猿に

似せしぬとあうとくや初き時うや清ん
おしうとて著しうふお胎せよゆくは

ま日望の鹿の角とま

奈良のま日望の鹿ハ古うとて損ず

少民の患少てゆし寛文十三よりなり

儘にまおちくぬとて角と切し

まちれバ東大寺興福寺の僧徒神獸と換す

るおちうとて難んせりしきおちあ

い角ある者ハ角と切し人噉し馬ハ耳と割

とよる聖賢の授けりとして八九月にむて稔多
小治きて切らせらるゝい船と切よりし海の
まへ引御多鉄少て切る難作あり若
新より切人より強カもれりひびきしき
今より切てハ信信ともいふなり信より切
信より切

若人との討の方便

松平下総守の家仲様并七々々々々々々々々々
まき多しよき多しよき一一人の金徳いなりし

く地しと耕ゆて奥屋従りめきりし又成田
吉十郎より屋従りし人よりハ念ひし
ちりしといふなりなりなりなりなりなりなり
七々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
りやちりてかのうし信くす鯨の口よりし信
しくおしひなりし信にも出さばおしひし
半信家 信より多きなりなりなりなりなりなり
しが信とめきりし信くす信くす信くす信くす
なきり云信よりなりなりなりなりなりなりなり

沼亀と喰セハ蛇るべきなりと云れバ亀
亦いづるも取れぬやめ庭の比に殺ち入れ用の時
るまふ丁々己く不意とほま源く隠き居
あれど人々多く比し入れざる搜る海にて
やうく一ツニツるま出づ既し殺しと喰へり
所を先病人はのこるるなりしみされ次の
日ようも亀も池のけとあしく哭て甲を
けしりうはしに思ひ考ふに己く殺し
べきなりと知てかくき入病人果て殺し
けり

きりやうておめりりや奇物なりと云ふ

盗賊別表

伏見お懐のりうき村おまに馬喰人
しと移へて捕へに地の盗人白木路一
本路一匹つおしうばいりるおと問に
りまハ黒素栗毛よハ白きまあん白馬に
そあんて胴中うり足までも巻也まとい馬を
追ふあまうてもお目ハ班と云ふるま
とハあうづらうと云いとる

いふく都上河一ふへるう

巧智集と解

ある人果是や實也よやき實やと評す氣
の接ひあるとあらうと能くしんと評すやう
うは類へ氣や生拂てそのまにうへりれと
おれ人我とふいふと下るふ堪忍するはそ
に俄へ訃へうへおふとる件の氣でめい出
松金修賢のまけりとのまけり一に實やく
徒のめいうへまううはまをれあがる者の
旋のめいうへまううはまをれあがる者の

宿を智れがきうとて教目禁獄せうれ
りて後のはせいとあらうとあらうとあらう
人かんぐあらうとあらう

官家獄中の或戸と組明す

尾州の町より松平なる天竺路をゆく時
七坂をゆくまうて筆死の者ありとまへ先観
當職うまぬりてまめひうふいふはんと何
りりや七坂をゆくまうて先例のまめひ
角よなるうへ但しそ者科の法定うま

ども我^{われ}向^{むか}づ^く 離^{はな}れ^はけ^り あり^し 右^{みぎ}の代^{しろ}八百
えま^りのち^うを^を 纒^はり^し も^も あり^し れ^も も^も ち^う 悔^くざ^りと
し^し ち^う 八百^{はち}え^んま^りし^しと^と け^ん ち^う あり^し を
ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と
ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と
今^{いま}夜^よハ^ハ 糸^{いと}ま^りと^と 結^{むす}つ^く 金^{かね}に^に せ^れれ^う
ち^う 悔^くざ^りと^と 金^{かね}の^の 貴^{たか}き^き 味^{あじ}と^と ち^う 悔^くざ^りと^と
信^{しん}者^{しや}と^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と
ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と ち^う 悔^くざ^りと^と

釣^つの咽^{のど}よ^よ 入^いる^る せ^せ 治^ぢす

つ^つの^の 咽^{のど}よ^よ 入^いる^る せ^せ 治^ぢす
ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と
ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と
ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と

穂^ほの咽^{のど}よ^よ 入^いる^る せ^せ 治^ぢす

穂^ほの^の 咽^{のど}よ^よ 入^いる^る せ^せ 治^ぢす
ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と
ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と ち^ち 悔^くざ^りと^と

胡^こ梅^{ばい}よ^よ 入^いる^る せ^せ 治^ぢす

佐久男 勘をうきふ息つる時胡椒の粉を
よみひきんで絶死せしむる人曰
ゆてなぐへりぬが獲生りしと云う

藁石 梟くへる

所へんたむれく藁石を梟の孔へ
おけしきもむざりし紙ようそし
一方の孔へ入りぬかきしして石をうて

尾州の真市條の食湯を療す

尾州名古屋より所へん人條の油をうて喰て

食湯 此の外よりうたはる療かりく
せうとうと云うしなうと云うし
唐人よりしる事ありて頓て乳を
ちぎけり口へてうたはる立ぬ
しうりしと也

新著聞集

清直篇第十六

継子嫡とる

狐君命と懼る

浪人切腹

高債の革囊本いふ

阿州の大宇賣紙と禁制す

二狐命と伏し盗の狐と縛まる

條修政宗

二丈殿と伏しぬを謀るは

宇佐河多田比とく

人女と海苔び

賜物にふつに地の所とていしと批判す

柿菓とふとあつてあふれあつてはさう

貧乏うゝぶりあて己が海と出す

雲丸泥僕はひく師の履と帯

美中に物あつて自誤とばりると謝す

賊とぬくぬくとかくす

秘符病と療一却て宗旨とつくじ

結ぶ娘とこゝろ

阿別家中に三浦少太郎といふ人ある一々の

後主とて設あすでいひも長くにまゐるをば

を家といふくまゐの孫あつては某とまゐは

きふふの向後とて今すでに成へせしうへ

われとあつていふ人なりやあゝ某のハ

あねけとていふ人なりやあゝ某のハ

のつゝい集めて自づからまゐる某の隣とて

しめとてあつていふ人なりやあゝ某のハ

丹波亀山の城と松平伊豆守久高が所領を
又、この川すりかんでくわいじにまぐら穿堀乃
うへて堀の取戻ちもれはいうふ畜生もの
とて此所の住人おろくろの地悪なりとい
し昨日ハあつた掘りでもというをもぬけ
その奥殿の石名のおとせき一ありとほくそ
まやゆゑえさるハ掘で葛にてつくり友掘二いま
そのおろくの端でくわいてなすりて能く土運て

陳修家

松平阿波守久家来らる月と市多ハ代々日蓮宗
了て殊ニ母ハ聖國の信者なりは若中に
帰依の上人より末劫にわすれざる成仏の一句
傳へしと云ふ云れし少く源氏の三子
上人とも取さるれば上人のいそぐそれ一句といふ
念仏を志すはよくしと云ふ大切の念仏で淨土

賄ふよりひと境の碑と批判す

多れぐ迄すへーと云りし
 白くきききききききき
 白くきききききききき

備中 山と村々をめぐりて百姓ありて海を
東照 於現の津糸と産物の掃と客のうら
茶々 掃と百と汲みよるをせんようと思ふ
中々 汲と汲とありてある所のけふの店にて
茶々 坪の掃と汲と一と二と一と賣り如
あや なくないふれふとふのけふのふれふの

ゆゑ換てすゝめりといふくしはなほはうたてき
るうゑるゑのゆゑもいふくしはなほはうたてき
損へきせやくもいふくしはなほはうたてき
左の換てはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
もふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
すゝめりといふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
ゆゑもいふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
その後にもいふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
ゆゑすゝめりといふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき

うゑもいふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
いふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
と書いふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
れゝまゐりしうたてきといふくしはなほはうたてき
しゝるまゐりしうたてきといふくしはなほはうたてき
感へきといふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき

貧乏頼りて已に換て出す

大坂後町といふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき
ゆゑもいふくしはなほはうたてきといふくしはなほはうたてき

きんからせうのりしひ強中に妙昌と
よ且もやふみゆるししひおひ
てきしうはひ人死ふるをと皆て
妙昌と云くくはいふも我の用ありて
傍くくして翌日又もいせはりくあり
それの勢く三原マ勘あるのす、排く
おのれもく念仏強強とこれのけいり強
とて強も妙昌く告しうはきをうん我
今食くもればんく強くくうくはいふ
ハ

はりりこれにき強強ききんを某が取
神ハるうりきんをくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくく
感くくくく

雲外從僕はくく師の履と帯

いのみ越智郡の内白河のゆや
遍強の強きくて一也のきく
人きくくく奥州きくくく
きくくくくくくくくく

對^{あひまへ}する多^{おほく}立^た後^{のち}法^{はう}や^うし^てとれぬ^{なり}屋^や突^{つき}にありし
い^うう^うのや^うと破^{やぶ}却^{かへ}し^てあり^しと^も東^{あづま}對^{あひまへ}する
ゆ^ゆめ^めの執^{しつ}事^じと^て今^{いま}の^の我^{われ}今^{いま}の^のつ^つと^と所^{ところ}不^ふ也^{なり}
所^{ところ}に^て他^{ほか}の^の執^{しつ}の^の不^ふあり^しん^ん三日^{さんじつ}の中^{なか}に^に評^{ひやう}議^ぎ
ふ^ふす^すべ^べし^して^て幸^{さい}に^に免^{めん}さ^させ^せる^るふ^ふと三日^{さんじつ}の^のゆ^ゆめ^めに
件^{けん}の^の執^{しつ}き^きと^と所^{ところ}に^に穿^{せん}竅^{きやう}を^をあ^あけ^けて^て刑^{けい}科^か
せ^せて^てと^とる^るに^にお^おの^のけ^けき^き極^{ごく}く^くと^とある^るか^か大^{だい}一^{いつ}
老^{ろう}執^{しつ}と^と執^{しつ}して^ては^はけ^けし^し敵^{てき}も^もあ^あく^くや^やん^ん心^{しん}を^を
や^やぶ^ぶて^てや^やし^し海^{かい}と^と造^{ぞう}を^をし^しと^とあり^し

點^{てん}との^のて^て記^きせ^せが^がす

尾^び州^{しゅう}の^の佐^さ長^{ちやう}ま^まと^とい^いひ^ひ人^{ひと}ハ^ハ方^{はう}智^ち羣^{ぐん}せ^せ武^ぶ
歴^{れき}を^をさ^さぐ^ぐい^いう^うし^しに^には^は中^{ちゆう}人^{じん}と^とい^いふ^ふに^に是^{こゝ}に^にて^て
七^{しち}百^{ひやく}名^なと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふし^しに^にい^いう^うと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
汲^く井^{せい}と^とい^いふ^ふに^には^は名^なと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
し^しハ^ハ我^{われ}汲^く井^{せい}と^とい^いふ^ふに^には^は毛^{もう}氏^し虚^{きょ}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
聖^{せい}忽^{こつ}と^とい^いふ^ふに^には^は接^{けつ}離^りと^とい^いふ^ふに^には^はハ^ハこれ^{これ}大^{だい}寺^じの^の法^{はう}と^と
昔^{むかし}フ^フハ^ハゆ^ゆじ^じに^にい^いふ^ふに^には^は讒^{さん}佞^{てい}の^の所^{ところ}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
と^とい^いふ^ふに^には^は狭^{きやう}多^たと^とい^いふ^ふに^には^は切^{せつ}の^の所^{ところ}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
と^とい^いふ^ふに^には^は切^{せつ}の^の所^{ところ}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ

字音と何ういふ
誓願寺のどろりしう